

# 中1国語 「自由進度×探究ログ×オクリンクプラスで『古典のことばの壁』を越え、根拠ある解釈へ」



- ・探究ログ（学習の地図）に沿った課題提出と進歩可視化
- ・探究・表現課題の選択制アウトプットを共有し、「竹取物語展」で相互鑑賞する学びの場づくり

## 活用背景・ねらい

中学1年国語『竹取物語』において、古典に親しませることを目標としたが、『伊曾保物語』を読む段階で、現代文と異なる語彙や仮名遣いに強い抵抗感が見られた。語句理解や反復練習が必要である一方、一斉指導では理解度や習熟差への対応が難しく、学習意欲の低下も懸念された。そこで、**個々のペースで学べる自由進度学習を取り入れ、AIやデジタルツールを活用**しながら、計画を立て、アウトプットの活動ではオクリンクプラスを活用。生徒一人ひとりが言語の壁を乗り越え、古典を自力で読み解く力を育てることを目指した。

## 成果・効果

「単元内自由進度学習」により、生徒は習熟度に応じて主体的に学ぶ姿が顕著に見られた。**上位層は教材を発展的に活用しアウトプットの質を高め、中位層は協働とGoogle フォーム活用で基礎理解を定着させた。特に下位層では、ループリックを基に目標を自ら設定し、視写や音読を重ねて粘り強く挑戦する姿が見られ、学習への自信が向上した。また教員間でも教科横断的な学びの価値が共有され、他教科へも実践が波及するなど、学校全体の授業改善につながった。**

## 授業・取り組みの流れ

### ① 導入

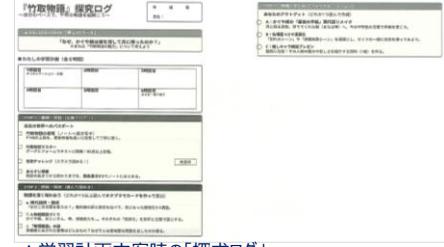
学びの目的と進め方を共有する本実践では**Google Gemini**を活用して「単元内自由進度学習」を作成した。それを軸に、**生徒が自ら学びを設計し、習熟度に応じて探究を深める授業を構成**した。全6時間のうち活動時間は5時間、最終1時間を共有の場とし、学習の進行は生徒に委ねた。物語全体を貫くBig Questionを提示し、自由進度学習の意義を説明。学習計画は「探究ログ」を用いて各自が立案し、評価の見通しをもてるよう学習評価ループリックを事前に提示した。学習環境も話し合い、教室や別室など自分に合った場所を選択できるようにした。

### ② 展開

習熟度に応じて学びを深める展開4時間は3段階で構成した。STEP1では、古典理解の基礎として語句理解、音読、視写を必須課題とし、Google フォームによる確認テストは合格まで繰り返し挑戦可能とした。STEP2では、人物相関図や「無理難題」の整理を通して**物語構造をオクリンクプラスを活用して可視化し、理解を深化させた**。さらに深く学びたい生徒には、難度の高い原文や現代語訳を追加配付した。STEP3では、物語世界を現代の言葉で捉え直す活動として、「**最後の手紙**」のリライトや**4コマ漫画で古語を使ってセリフ改変**に、オクリンクプラスを活用して取り組ませた。また、振り返りを通して計画の修正も行った。

### ③ まとめ

学びを共有し、次につなげる最終時には「竹取物語展」を開催し、生徒が制作物を展示・鑑賞する場を設けた。作品を介した対話により理解を深め、早く終えた生徒は推敲や発展課題に主体的に取り組んだ。**自由度の高い学習と明確な評価基準を両立**することで、生徒は最後まで目的意識をもって学習に取り組むことができた。



▲学習計画立案時の「探求ログ」



▲Geminiを活用して作成したループリック



▲オクリンクプラスで提出された「無理難題」の整理

## 4コマ漫画



▲4コマ漫画で古語を使ってセリフ改変（※子どもの承諾済み）